

文部科学省私立大学戦略的研究基盤形成支援事業(平成22年～平成26年)

「国際日本学の方法に基づく〈日本意識〉の再検討ー〈日本意識〉の過去・現在・未来」

研究アプローチ①「〈日本意識〉の変遷ー古代から近世へ」

2014年度 第5回研究会

女が歴史を詠むとき —近世女性歌人と日本意識—

田中 仁

(学習院大学文学部日本語日本文学科 助教)

江戸時代に活躍した女性歌人の多くは男性の国学者や歌人に師事するという形で歌の詠み方を身につけ、実作に臨んでいた。男性が女性に対して「かく詠むべし」と示した歌のすがたとはどのような傾向があったのだろうか。その添削の事例や歌論から見えてくる歌の詠み方指導の実態を概観する。その上で、江戸時代の女性歌人と日本意識について考察するにあたり、日本の歴史上の人物や史実を題材にした和歌—いわゆる詠史和歌に着目してみたい。詠史和歌は近世後期から幕末にかけて当時の歌壇において大いに流行したが、その要因の一つには古学が浸透したことによって自国の歴史への関心が高まったことが挙げられるだろう。また、当時の人々が海外の国々に意識を向けるようになったこともそれに拍車をかけたものと思われる。日本意識と不可分な関係にある詠史和歌について、男性と女性がそれぞれ詠んだ作例を検討し、とくに女性歌人の歌の特色について考えてみたい。

日時:2015年 1月 30日(金) 18:30～20:30

場所:法政大学市ヶ谷キャンパスポアソナードタワー19階D会議室

司会:小林 ふみ子(法政大学国際日本学研究所所員、文学部教授)

参加申込:以下の申込専用フォームからお申込みください。

<https://www.event-u.jp/fm/10485.html>

※ 参加費無料 どなたでもご参加いただけます



法政大学国際日本学研究所
TEL:03-3264-9682
<http://hijas.hosei.ac.jp>

